

自閉症・情緒障がい学級
第1・2学年 自立活動学習指導案

・・・Ⅱ

日時 令和〇年 〇月 〇日
場所 〇〇小学校
指導者 〇〇〇〇

1 題材名

「自分と友達のことを考えよう」

【コミュニケーション（1）（2）、人間関係の形成（2）（3）、心理的な安定（1）】

2 題材について

（1）児童の実態について

本学級は、1年生と2年生合計8人が在籍している。ここでは、学習を行う2年生の実態について述べる。

（中略）

このような本学級の児童の実態から、コミュニケーション面での課題が見えてきた。そこで、学級全員で本題材に取り組み、自分や友だちの気持ちを知ったり、どのような発言や行動をすればよいのか考えたりすることができるようになってほしい。そして、学習したことが少しずつでも行動につながってほしいと考える。（自立活動目標設定シート、自立活動個別の指導計画参照）

（2）題材について

学習指導要領の自立活動の目標には、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」とある。

本題材では、自分や友達の気持ちを知ったり、どのような発言や行動をすればよいか考えたりすることをねらいとする「自分と友達のことを考えよう」の学習について取り扱う。本学習は、「コミュニケーション（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること」、「コミュニケーション（2）言語の受容と表出に関すること」、「人間関係の形成（2）他者の意図や感情の理解に関すること」、「人間関係の形成（3）自己の理解と行動の調整に関すること」、「心理的な安定（1）情緒の安定に関すること」、に関連している。自分や友達の気持ちを知ったり、発言や行動について考えたりすることはコミュニケーションを円滑にするために必要なことだと考える。

今の生活、そして将来の生活のためにも、自分のことを一方的に伝えるのみならず、相手の話を聞くことも重要であり、会話が広がっていくことになる。そのためにもまずは自分について知ること、そして相手の気持ちを想像することが大切になると考える。

本題材の学習を通して、自分のことを少しでも考えること、そして相手の気持ちを考える経験をしてほしいと考える。その中で、少しずつコミュニケーションにおいて必要な力を身に付けることができるようにしていきたい。

(3) 指導にあたって

【特別支援教育部会 研究テーマ】一人一人の輝きが見える授業のあり方
～特別支援学級の中で～

一人一人の児童が輝く姿とは、意欲的に学習に取り組み、「わかった」「できた」と達成感を感じている姿だと考える。その姿を引き出すために、次のことに留意しながら指導・支援を行いたい。

① 見通し

言葉のみの指示では、理解が難しい児童もいるため、1時間の授業の流れを示し、活動を理解して意欲的に学習することができるようにする。

② 教材や活動場面の工夫

意欲的に楽しく活動しながら考えたり行動したりすることができるように、簡単なゲームを取り入れる。特に、集団行動をとったり、人間関係を築いたりする上で必要な技能を習得するためのソーシャルスキルトレーニングを取り入れる。学習したことを実生活に生かすことができるように、簡単な場面を設定してロールプレイなどを行う時間を設定する。また、全員が発表したり、活動したりすることができるように、場面を設定したり、声かけをしたりする。頑張っている場面やよかったところをほめ、意欲や自己肯定感を高められるようにする。

③ 評価

学習を振り返る時間を設け、できるようになったことやがんばりたいことを個人で考えて記入したり、発表したりすることにより、児童の学習状況をつかむことができるようにする。

3 題材の目標

- 自分のことを振り返って、自分の気持ちを伝えることができる。
- 友達の話聞いて、友達の気持ちを知ることができる。
- どのような発言や行動をすればよいのか考えることができる。

4 自立活動年間指導計画

内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
聞く力を高めよう (朝の会での読み聞かせ等)		→											
身体を動かそう (朝の会での体操を含む)		→											
自分と友達のことを考えよう								本時					

9月	ゲームで負けたとき、トーキングゲーム(コミュニケーション、仲間関係、自己理解)
----	---

10月	気持ちでビンゴ、他の人があてられたのに自分が答えを言ってしまう、トーキングゲーム（学習態勢、情緒・自己理解）
11月	約束の時間におくれた、トーキングゲーム（生活・自己理解）
12月	「まちがっているよ」と言われた、トーキングゲーム（コミュニケーション、自己理解）
1月	友達としたい遊びがちがう、よく聞いて答えよう（仲間関係、学習態勢）
2月	いやなことを言われた、よく聞いて答えよう（コミュニケーション、学習態勢）
3月	気持ちでビンゴ、SSTすごろく（情緒・自己理解）

5 児童の様子、題材に関する年間目標、本時の目標、本時の手立て、評価規準

児童名	児童の様子	題材に関する年間目標	本時の目標	本時の手立て	評価規準
A児	略	自分の思いを適切な言葉で伝えながら、楽しく過ごすことができる。	他の人の発表の場面では最後まで聴き、その後に自分の発表をすることができる。	約束事を視覚的に示し、理解して行動しやすいようにする。	友達の発表を最後まで聴いてから発表している。
B児	略	自分の思いを適切な言葉で伝えながら、楽しく過ごすことができる。	友達の気持ちを考えることができる。 他の人の発表の場面では最後まで聴き、その後に自分の発表をすることができる。	絵などを示し、具体的に理解できるようにする。 約束事を視覚的に示し、理解して行動しやすいようにする。	友達の気持ちを考えて発表している。 友達の発表を最後まで聴いてから発表している。
C児	略	友達に自ら話しかけ、楽しく過ごすことができる。	他の人の発表の場面で、最後まで話を聴くことができる。 自分から手を挙げて発表することができる。	約束事を視覚的に示し、理解して行動しやすいようにする。 発表できるように簡単な問題を出したり、声をかけたりする。	友達の発表を最後まで聴いている。 自分から手を挙げて発表しようとしている。

D 児	略	自分の思いを言葉で伝えながら、楽しく過ごすことができる。	他の人の発表場面で、最後まで話を聴くことができる。	約束事を視覚的に示し、理解して行動しやすいようにする。	友達の発表を最後まで聴いている。
		難しいことにもあきらめずに挑戦したり、助けを求めたりすることができる。	自分の意図にそぐわないことがあっても、気持ちを切り替えて参加することができる。	不機嫌になったときには、個別のスペースに行くよう促すなど声をかける。	自分の意図にそぐわないことがあったとき、気持ちを切り替えて参加しようとしている。

6 本時の展開

(1) 全体目標

○他の人の発表の場面では最後まで聴いて、自分の発表をすることができる。

(2) 個別目標

○A児：他の人の発表の場面では最後まで聴き、その後に自分の発表をすることができる。

○B児：友達の気持ちを考えることができる。
他の人の発表の場面では最後まで聴き、その後に自分の発表をすることができる。

○C児：他の人の発表の場面で、最後まで話を聴くことができる。
自分から手を挙げて発表することができる。

○D児：他の人の発表の場面で、最後まで話を聴くことができる。
自分の意図にそぐわないことがあっても、気持ちを切り替えて参加することができる。

(3) 展開

過程	学習活動, 主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価		備考
		全体	個別	
導入 3分	1 学習の流れを知る。	・学習の流れを視覚的に提示し、理解しやすいようにする。		スケジュールボード

展 開 37 分	2 ウォーミングアップをする。 ・船長さんの命令です ・ぬきぬきことば ・さかさことば	・答えを理解しやすいよう視覚的に示す。	・必要に応じてメモをとってもよいことを伝える。(A児・C児・D児) ・間違っても良いことを伝える。(A児・D児) ・先に答えを言われて不機嫌になった場合には、個別スペースで落ち着く時間を持つことができるようにする。(D児)	大型テレビ パソコン メモ紙
	めあて① ともだちの気持ちを考えよう。			評価 (D児) 自分の意図にそぐわないことがあっても、気持ちを切り替えて活動に参加しようとしている。
3 「授業中、他の人の答えをとって自分が言ってしまう」場面について考える。 (T) こんな場面はありませんか。 (C) ある。〇〇さんがすぐに答え言う。 (T) 他の人に先に答えを言われたらどんな気持ちですか。 (C) いやな気持ち。 (T) こんなとき、どうすればいいですか。 (C) 友達が発表するのを待つ (T) では、どんなルールがあると良いですか。 (C) 友達が発表するのをちゃんと聞く。 (C) 手を挙げてから発表する	・めあて①を確認する。 ・場面についてより理解することができるように絵を示す。	・発表することが難しいときには、一度メモをして考えを整理しても良いことを伝える。(C児・D児) ・自分を振り返って極度に落ち込むことがないように、様子を見て声をかける。(B児)	場面絵	
			評価 (B児) 友達の気持ちについて考えたことを発表することができる。	

	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて② しっかりきいて、ルールをまもったのしもう。</p> <p>4 実生活に生かすことができる場面の活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ大会をする。 <p>① 出題者：教師</p> <p>② 出題者：児童（交代で）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぬきぬきことば ・さかさことば ・スリーヒントクイズ ・なぞなぞ ・クイズ ・よ〜く聞いて答えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあて②を確認する。 ・必要に応じて、個別の目標も示し、意識しながら活動できるようにする。 ・できるだけ全員が発表できるように指名し、全員が体験できるようにする。 ・意欲的に活動できるように、出題したいクイズの種類を選ぶ活動を取り入れる。 ・クイズに正解することが良いのではなく、ルールを守れたかどうかを事前に伝え、めあてが達成できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が言いたくても我慢できた場合はほめ、強化する。（A児・B児） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価（全員）</p> <p>指名されてから答えを言うことができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価（C児）</p> <p>自分から手を挙げて3回発表することができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価（D児）</p> <p>自分の意図にそぐわないことがあっても、気持ちを切り替えて活動に参加しようとしている。</p> </div>	<p>クイズカード 大型テレビ パソコン</p>
<p>終末5分</p>	<p>5 学習をふり返る。</p> <p>(T) 今日、勉強してわかったことやできるようになったことはありますか。</p> <p>(C) 発表する前に、我慢しないといけないことがわかりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてについても意識できるように、声をかける ・振り返りの観点を示し、児童が発表しやすいようにする。 		<p>振り返りの観 点カード</p>